

このような教学上の矛盾の根底的批判を行なつた寮連合に対して天野教学担当理事をはじめとする理事者のほとんどが、寮連合の団交出席要求に応えることなく公の場から一斉に姿を消したのである。その逃亡の「マンガ的」なことは後の事実経過で明らかにするが、そのような大学理事会のナンセンス極まる対応に抗議して寮連合は一月一六日深夜大学当局に最後通告を行なつた。その後、この寮闘争を支援する全学共闘会議（準）とともに「立命館大学本部中川会館」のバリケード封鎖を執行するに至る。

バリケード封鎖を執行するに際しては内部的に様々の議論が闘わされたが、主要には次の二つの意義があった。それは、大学当局の欺瞞的行動に対する抗議と、立命館体制全体に対する問題提起であり、合理的秩序・日常性に対する非日常性の切り込みであった。そして、国家権力・大学当局・日共・民青の三位一体となつた二月二〇日の我々の排除まで、中川会館バリケードは一貫して運動の拠点として存在していたのであり、このバリケードなくして立命館闘争の高揚も又あり得なかつたであろう。全共闘（準）の戦術エスカレート論争は、寮連合の単独先行によって決着がつく。フロントは自己も基盤をもつ寮連合に同調するが民字同・革マルは占拠に反対し全共闘から脱退する。（広小路、衣笠共闘を結成）

（資料）寮連合—学寮委員会交渉

一月一五日

才一回学寮委員会と寮連合との交渉

△寮連合の主張

二度にわたる要請書（①「厚生」「教学」「寮」の用語の概念規定、②寮連合のBOXに電話設置）の無回答に対する自己批判要求
△大学の回答

寮生の問題提起が寮における教学・厚生・総括としての問題提起として理解できなかったことを反省し、今後学寮委としては寮生と総括討論を深める過程で問題の所在を明らかにし、寮政策を積極的に前進させたい。

一月二六日「学寮の現状と課題」文書で回答

一月四日

才二回交渉

△寮連合の主張

「学寮の現状と課題」は我々の要求に答えるものでない。再度、合賛徹底についての大学の回答を迫る。

一月一六日

才三回交渉

△寮連合の主張

①三九年度確認事項の放棄
②三項目要求再度回答迫る（合賛・水光熱費）
③五項目要求の提起

一月一日以降の一連の事態（新聞社事件）についての問題提起。

全学集会への学生部長の参加。

△大学の回答（四点回答）

①諸君の要求は体制否定を目指すものとして受けとめることが出来るが、直ちに実現を求めることは現実的に厚生政策を愚弄する。

③三九年度確認事項を発展させる中で、旧寮の吸収を含む新寮建設を具体化する。
③厚生政策の充実として、新寮建設までの過渡的措置として旧寮の基本料金は大学が負担する。
④学思寮食堂人権費の赤字の大学負担は三者で早急に検討する。

二月二〇日

才四回交渉

△寮連合の主張

三項目要求について

昭和四四年一月一〇日
才五回交渉

△寮連合の主張

三項目要求について直ちに回答せよ。

四点回答白紙撤回

三項目及び入寮選考権・舎監制度撤廃について次回に回答せよ。
学思寮・学生部職員・現職配置及び舎監の入寮拒否宣言。

△大学の回答

三項目要求について解答出来る状況にない。それを敢えて迫っているのは大学の寮政策をさらに全面的に検討することを迫っていると受止める。四点の回答の評価の違いを前提にしつつも生活の問題を含めて他の諸項目で求められている問題をあわせて全学討論にしたい。そのために保留したい。

一月一三日

才六回交渉

△寮連合の主張

①三九年度確認事項の評価について、

②五項目要求（1. 合賛徹底、2. 水光熱費全額大学負担、3. 食堂人件費（学思寮）大学負担、4. 舎監制度撤廃、5. 入寮選考権全面獲得）
△大学の回答

①①旧寮基本料金の大学負担

②学思寮食堂の人権費問題は生協と協議の上、一月末までに回答

③統一寮問題は特別委員会を設置して具体的検討を進める。

④入寮選考は早急に君達と討議したい。

※寮連合、大学側に誠意が無い場合中川会館封鎖を行なうと予告。

一月一四日

才七回交渉徹夜討論

この段階で、理事会首脳を除く、学振懇を構成する大学理事者、教授会の中心メンバーが交渉に参加する。

△寮連合の主張

①寮生の意志を教授会にストレートに伝えよ。
②大学の最終回答を文書で明らかにせよ。
③教学担当理事の参加要求

△大学の回答

①教授会の討議をふまえ拡大補導会議で検討し回答する。
②教学担当理事の参加については努力する。

△事務交渉

①教担理事は本日は授業と会議で出席出来ない。
②内容討議を煮つめたい。